



2021年度琉球大学入試はこのように変わる
～琉大をめざす皆さんへのメッセージ～

琉球大学は2020年度に実施する2021年度入学者選抜の内容について公表いたしました。本学では、アドミッション・ポリシーに基づき、「学力の3要素」(①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)をより多面的・総合的に評価するものに改善します。

大学入学共通テストの枠組みで実施される英語認定試験について

2021年度入試においては、大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テスト(以下「共通テスト」という。)が導入されることとなり、英語4技能を測る民間の資格・検定試験(以下「英語認定試験」という。)が利用され、琉球大学では入学者選抜に活用します。

高校で学ぶ内容を定めた学習指導要領で、外国語による「読む」「聞く」「話す」「書く」の「4技能」を総合的に学ぶこととしており、高校の学習の中でも、皆さんの英語力を把握し、さらなる学びにつながるため、民間の英語4技能試験を活用しているところも多いと思われます。これからの時代において、外国語の4技能を学んでいくことは、ますますその重要性を増していくでしょうし、大学の学びの中でも4技能を活用することが求められます。そのようなことから琉球大学では、共通テストの枠組みで実施される英語認定試験を活用することとしました。

琉球大学では、大学入試センターによって「大学入試英語成績提供システム」の参加要件を満たすことが確認された全てについて対象とします。また、大学入試センターが大学に提供する各実施主体が定めるスコア(バンド表示も含む)、CEFRの段階別表示及び合否(判定している場合)のうち、CEFRの段階別表示を活用します。また、英語認定試験の結果のみで受験機会が狭められないように、一部の入学者選抜区分を除き共通テストの英語試験の得点に加点する方法としました。

英語認定試験については、その具体的な実施方法が実施主体からまだ明らかになっておらず、皆さんや受験関係者に不安を与えていることと思われます。高等学校関係者からは、資格・検定試験の学習指導要領との整合性、家庭の経済力や居住地域による影響について、また、4月の試験から認められることによる大学受験期間の早期化などが指摘されています。また大学研究者からは、異なる英語認定試験のCEFRによる比較可能性の問題、試験の質保証の継続性の問題、スピーキングにおける採点の質の確保の問題、不正やトラブルへの対応の不十分な点などが指摘されています。

これらのことに鑑み、琉球大学では、一般選抜で活用する英語認定試験については加点方式とし、加点の点数の最高点が共通テストの英語の成績と合わせた英語全体の満点に占める割合を、受験生や関係者が得心するであろう1割程度となるようにしました。CEFR の6段階(基礎段階の言語使用者(A1,A2), 自立した言語使用者(B1,B2), 熟練した言語使用者(C1,C2))の水準ごとの具体的な加点点数は、大学入学共通テストの英語の「筆記(リーディング)」「リスニング」の最終的な配点が決定後に決定します。加点する配点を含めた合計点については、他の教科・科目との比重の観点から換算(圧縮)して合否判定に利用しますが、入学者選抜区分に応じて異なる場合もあります。

皆さんの中には、「せっかく、英語認定試験を受検してもたった1割か」と思う人がいるかもしれません。これは、受験生や関係者の不安や、受験生への影響が小さくなることを考慮したことによります。また、万が一、英語認定試験でのミスやトラブルが生じた場合、受験生が不利益にならないよう琉球大学は全力で事態の收拾を行います。英語認定試験の活用については琉球大学では、2024年度に向けて、大学入学者選抜における英語4技能評価の在り方について、引き続き検討していきます。

大学での英語教育

また、「琉球大学は外国語教育を重視していないのか」と思う人がいるかもしれません。琉球大学では、1年次に全学共通の「大学英語」という授業を必修とし、全学的な英語運用能力の測定を行っています。CEFRの参照枠をベースとした英語教育到達度指標「グローバル・モジュール」を開発し、学内の学習教育体制の体系的整合性を明確にし、学習アウトカムの標準化を保證する先進的な取り組みを進めています。また、国際教育センター外国語ユニットにおいては、語学ラボ室やAV 機器が備わった語学自習室を設置し、さらに e-Learning や英語学習アドバイザーによるTOEFL・TOEIC 試験のスコアアップ講座の開設など自主的な英語学習をサポートする体制が整えられています。留学に対するサポートやそのための琉球大学 QUEST 基金なども準備しています。決して英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)を積極的に使える人材を育てるという目的を否定しているのではなく、入学後に外国語(英語)教育をしっかり行い、また皆さんが自主的に外国語(英語)学習に取り組むことを積極的にサポートしています。

大学入学共通テストにおける国語と数学の記述式問題の取扱い

一般選抜の共通テストで国語が課されている場合は、記述式問題も含むものとします。国語の記述式問題については、大学入試センターから段階別評価が示されることになっています。記述式問題の結果は点数化してマークシート式の得点に加点して活用します。加点の方法は、小問の成績に重み付けを行った5段階で表示される「総合評価」の段階ごとに加点する点数を定めます。加点する最高点がマークシート式の得点と合わせた国語全体の満点に占める割合については、2割程度となるようにします。加点する最高点及び段階ごとの点数等の具体的な数値は、共通テストの国語の記述式の段階別成績表示の詳細について、大学入試センターから公表された後に定め、公表します。加点する配点を含めた合計点については、他の教科・科目との比重の観点から換算(圧縮)して合否判定に利用しますが、入学者選抜区分に応じて異なる場合もあります。

数学の記述式問題については、段階別評価は行われず、マーク式問題と同様に配点がなされることから、マーク式問題の得点と合わせて活用します。

医学部と教育学部の英語認定試験等について

一般選抜においては、全ての学部で原則として、英語認定試験を加点方式(1割程度)で活用しますが、以下の入学者選抜区分では、アドミッション・ポリシーに応じて、異なる活用とします。

(ア) 医学部医学科

医学部医学科においては、英語認定試験を出願資格として活用します。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)による対照表に基づき、A2以上を出願資格とします。

医学が対象としている生命科学は絶えず進歩しています。医学部医学科は、これから医師を目指す人たちには、新しい知識を身につけていくための道具として、英語の能力を高校卒業までに最低 A2レベルを求めます。

(イ) 教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース学校教育専攻

教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース学校教育専攻においては、英語認定試験を加点する方法としますが、加点する点数の最高点が共通テストの英語の成績と合わせた英語全体の満点に占める割合については、2割程度となるようにします。

小学校での英語教育が浸透し、2020年度から小学3年生からの必修化また小学5年生からの教科化が実施されます。小学校教育コース学校教育専攻では、小学校教員を目指す人に求められる能力を重視して英語認定試験の配点方法を決定しました。

主体性評価について

「一般選抜」を含むすべての入試区分において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、入学者選抜区分の特徴に応じて調査書や志願者本人が記載する資料、小論文、面接等を活用します。

これは、皆さんが大学入学前に取り組んできた学習や高等学校での様々な活動の履歴や、大学進学に対する意志や意欲等をより適切に評価することで、多様な背景を持つ学生を受け入れると共に、琉球大学に入学を希望する人が、大学への合格を、人生の最終目的に見立てるのではなく、大学での学びで高校での学習や多様な活動等を活かして、卒業後の自分の人生を切り開いていってほしいと考えるからです。

具体的にどのような評価を行うかは、学部等のアドミッション・ポリシーに応じて、今後、決定します。2021年度入試では琉球大学は、「JAPAN e-Portfolio」を合否判定には一切利用しません(今後の入学者選抜改革に向けて学内での入試方法の研究のため参考データとして利用します)。

新たな総合型選抜

2021年度入学者選抜では、以下のような変更が予定されています。

(ア) 教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース学校教育専攻

一般選抜の後期日程の募集を停止し、総合型選抜を新たに実施します。なお、出願資格として英語認定試験を活用します。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)による対照表に基づき、A2以上を出願資格とします。出願資格の認定方法等の詳細については今後公表する予定です。

英語について出願資格を設けるのは、小学校での英語教育が浸透し、2020年度から小学3年生からの必修化また小学5年生からの教科化が実施されることにより、小学校教員を

目指す人には、高校卒業までに最低 A2レベルの能力を身につけておいて欲しいという意味です。

(イ) 農学部

農学部では、総合型選抜を新たに実施します。詳細については今後公表する予定です。

琉球大学で取り組む高大接続

今回の入試改革は入学者選抜の改革と共に、高等学校教育と大学教育の改革を行うということが目的です。改革により、皆さんが高等学校で身につけた、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」, また、その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決のために必要な思考力・判断力・表現力」およびその基礎となる「知識・技能」を、大学での学びで更に発展・向上させ、これらを統合した高い資質・能力を身につけ、社会構造が大きく変革する、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造し社会に貢献できるようになってもらうことが目的です。

そのために、琉球大学では大学教育と高等学校教育との円滑な接続を図りながら、体系的・組織的な教育活動を実施していきます。具体的には、入試制度を説明する「琉球大学説明会」の他、大学における学びや大学進学の意味等を考える「大学進学支援講座」を各高校に出向き実施しています。また、大学での授業を体験できる「出前授業」や「公開講座」, 「公開授業」に加え、高校生が大学の研究活動に参加し、将来のキャリアを含めた進路の指針を得る探究型の講座「琉大にぬふぁ星講座」も 2018 年度から実施しています。また、高度なレベルの自然科学を体験したい人向けに「琉大カガク院」や「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」のプログラムも準備しています。これらへ参加することで琉球大学での学びについてより深く理解できると思います。詳しくは高校の進路指導の先生または本学のアドミッションセンターに聞いて下さい。

お問い合わせ先

琉球大学 グローバル教育支援機構

アドミッションセンター

電話番号:098-895-8018

aopost@acs.u-ryukyu.ac.jp